

# 農林水産商工常任委員会資料

(令和3年12月1日)

## 項 目

- 1 令和3年度第2・四半期各事業実績について  
..... 2ページ
- 2 令和3年度上半期の企業局の経営状況及び決算見込みについて  
..... 3ページ

企 業 局

# 令和3年度第2・四半期各事業実績について

令和3年12月1日  
企業局経営企画課

## 1 電気事業

### (1) 販売電力量

- 第2四半期の全体での実績は、目標に対して97.5%、対前年比で78.7%となった。
- 水力発電は、雨量は多かったものの、小鹿第二発電所の運転停止等により、目標に対して97.4%となり、前年稼働の春米発電所の運営権移譲があったことから、対前年比では77.3%と下回った。
- 風力発電は、2号機の故障停止があったため、目標に対して83.1%と下回り、対前年比でも84.8%と下回った。
- 太陽光発電は、概ね日照に恵まれたことから、目標に対して105.8%と上回ったものの、期間中最も発電量の多い8月が前年ほどの好天ではなかったことから、対前年比では96.3%と下回った。

(単位: MWh)

区分		令和3年度			前年度 実績(C)	対前年比 B/C
		目標(A)	実績(B)	B/A		
水力	第2四半期	29,785	28,999	97.4%	37,516	77.3%
	累計	62,845	50,915	81.0%	74,953	67.9%
風力	第2四半期	1,017	845	83.1%	995	84.9%
	累計	2,313	2,267	98.0%	2,497	90.8%
太陽光	第2四半期	2,348	2,483	105.8%	2,578	96.3%
	累計	4,875	5,388	110.5%	5,642	95.5%
合計	第2四半期	33,150	32,326	97.5%	41,089	78.7%
	累計	70,033	58,570	83.6%	83,092	70.5%

### (2) 販売電力収入

- 第2四半期の全体での実績は、太陽光が好調も、水力と風力が目標発電量を下回ったことから、目標に対して98.7%、対前年比でも80.0%と下回った。
- 発電区分別では、目標に対し水力発電が97.8%、風力発電が83.1%、太陽光発電が105.7%となった。

(単位: 千円)

区分		令和3年度			前年度 実績(C)	対前年比 B/C
		目標(A)	実績(B)	B/A		
水力	第2四半期	331,265	323,884	97.8%	426,851	75.9%
	累計	699,188	578,805	82.8%	855,385	67.7%
風力	第2四半期	21,331	17,720	83.1%	20,885	84.8%
	累計	48,517	47,569	98.0%	52,393	90.8%
太陽光	第2四半期	92,559	97,832	105.7%	101,520	96.4%
	累計	192,154	212,293	110.5%	222,265	95.5%
合計	第2四半期	445,155	439,436	98.7%	549,257	80.0%
	累計	939,858	838,667	89.2%	1,130,044	74.2%

## 2 工業用水道事業

- 日野川工業用水は、契約数84社、契約水量28,400m<sup>3</sup>/日と前年に比べ増減はなかった。
- 鳥取地区工業用水は、対前年比で契約数13社と増減はなかったものの、1社の契約水量減等により、契約水量は5,900m<sup>3</sup>/日と50m<sup>3</sup>/日の減となった。

区分		令和3年度			前年度			対前年比 A/B
		契約数 (社)	契約水量 (m <sup>3</sup> /日)	収入額(A) (千円)	契約数 (社)	契約水量 (m <sup>3</sup> /日)	収入額(B) (千円)	
日野	第2四半期	84	28,400	73,743	84	28,400	68,561	107.6%
	累計			141,862			136,946	103.6%
鳥取	第2四半期	13	5,900	29,494	13	5,950	29,421	100.2%
	累計			58,097			58,104	100.0%

## 3 埋立事業

### (1) 新規売却及び長期貸付等

- 竹内団地で2社に売却した。

地区	区分	売却先	契約締結日	面積(m <sup>2</sup> )	売却代金(千円)
竹内	売却(一括)	株式会社グリーンクロス	R3.7.15	4,314.05m <sup>2</sup>	49,698
竹内	売却(一括)	L物流株式会社	R3.7.31	3,414.29m <sup>2</sup>	39,332

### (2) 一括即納売却、割賦販売、長期貸付の収入状況

(単位: 千円)

区分	一括即納売却	割賦販売	長期貸付	合計
第2四半期	89,030 (2社)	0 (0社)	794 (1社)	89,824 (3社)
累計	89,030 (2社)	0 (0社)	75,759 (11社)	164,789 (14社)

※長期貸付の内訳は、毎月払1社、年払10社。(すべて既契約分)

# 令和3年度上半期の企業局の経営状況及び決算見込みについて

令和3年12月1日  
企業局経営企画課

## 1 電気事業

### (1) 令和3年度上半期の経営状況

営業収益は、水力発電で4月、6月及び9月に降雨量が少なかったことや、小鹿第二発電所の故障による停止、また昨年2月から同年8月末までであった春米発電所の試運転分が減となったことにより、販売電力量が前年同期比29.5%減の約5万9千MWhとなったことから、前年同期比1億56百万円減の8億71百万円となった。

一方、営業費用は春米発電所リニューアルに伴う減価償却費の増等により前年同期比61百万円増の7億11百万円となったことから、営業損益は1億59百万円の黒字となった。

営業外収益は長期前受金戻入の減等により前年同期比1百万円減の16百万円となり、営業外費用は企業債利息の減により前年同期比1百万円減の18百万円となったことから、営業外損益は2百万円の赤字となった。

以上により、経常損益及び純損益は、1億57百万円の黒字となった。(黒字幅は2億17百万円縮小)。

### ○損益計算書(令和3年度上半期)

(単位:千円)

区分	R3年度(A)	R2年度(B)	差引(A-B)	主な増減要因
営業収益	870,841	1,027,313	△156,472	
水力電力料	526,186	777,623	△251,437	前年同期春米発電所試運転(5ヶ月間)の減 小鹿第二発電所の故障による停止等
風力電力料	43,245	47,630	△4,385	
太陽光電力料	192,994	202,060	△9,066	
繰延運営権対価収益	55,665	0	55,665	運営権対価(春米発電所)分割金の収益化
運営権者更新投資収益	52,751	0	52,751	運営権者更新投資(春米発電所)の収益化
営業費用	711,379	650,713	60,666	
水力発電費	508,220	459,564	48,656	減価償却費の増、市町村交付金・修繕費の減
風力発電費	36,116	25,643	10,473	
太陽光発電費	110,745	108,653	2,092	
一般管理費その他	56,298	56,853	△555	
<b>営業損益</b>	<b>159,462</b>	<b>376,600</b>	<b>△217,138</b>	
営業外収益	15,738	16,661	△923	
受取利息	121	9	112	
長期前受金戻入	14,477	15,109	△632	補助金で取得した資産の減価償却費の減少に伴うもの
雑収益	1,140	1,543	△403	
営業外費用	18,212	19,400	△1,188	
支払利息	17,372	19,395	△2,023	企業債利息の減
雑損失	840	5	835	
<b>営業外損益</b>	<b>△ 2,474</b>	<b>△ 2,739</b>	<b>265</b>	
<b>経常損益</b>	<b>156,988</b>	<b>373,861</b>	<b>△216,873</b>	
特別利益	0	0	0	
特別損失	0	0	0	
<b>当期純損益</b>	<b>156,988</b>	<b>373,861</b>	<b>△ 216,873</b>	

## (2) 令和3年度決算見込み

営業収益は、小鹿第一・第二、日野川第一発電所のリニューアル工事開始による売電量の減少に伴い、販売電力量を前年度比33.3%減の約9万7千MWhと見込み、前年度比425百万円減の15億10百万円の見込みとした。

一方、営業費用は、春米発電所の減価償却費の増等により前年度比52百万円増の14億96百万円の見込みとしたことから、営業損益は、14百万円の黒字の見込みとした。

営業外収益は、春米発電所維持運営受託収入の減があるものの退職金（他部局負担分）の増により前年度比5百万円増の1億15百万円と見込み、営業外費用は、退職金（他部局負担分）の増により前年度比43百万円増の81百万円の見込みとしたことから、営業外損益は、34百万円の黒字の見込みとした。

以上により、経常損益及び純損益は、48百万円の黒字の見込みとした（黒字幅は5億15百万円縮小）。

### ○損益計算書（令和3年度）

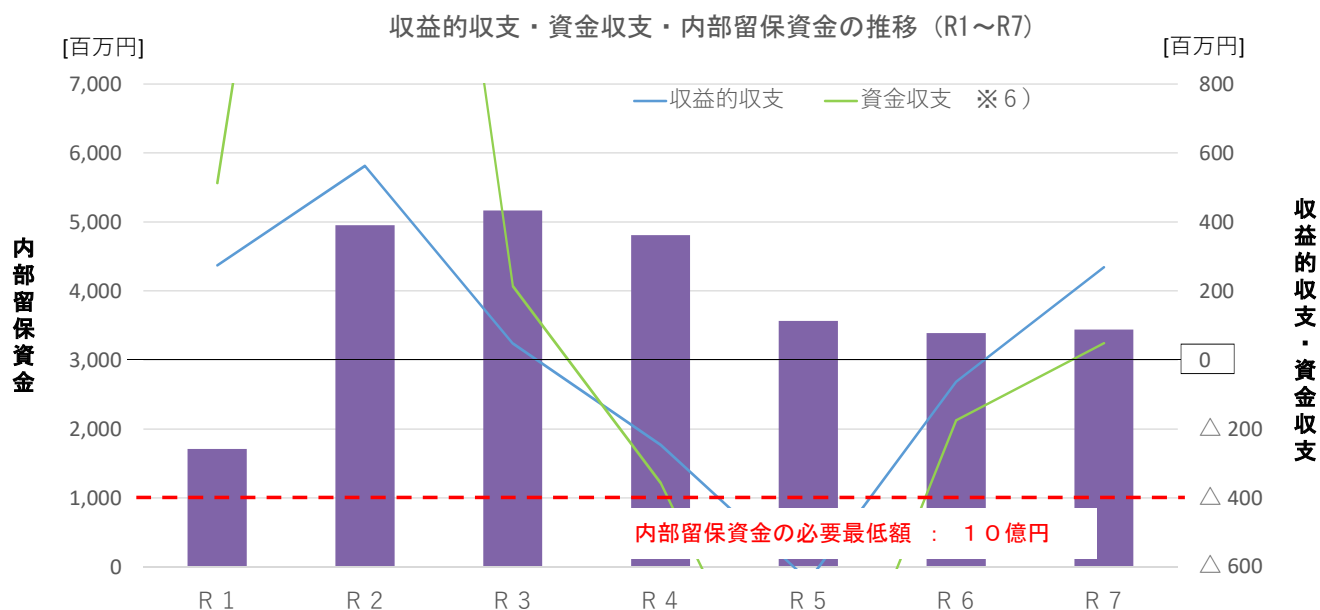
（単位：千円）

区分	R3年度(A)	R2年度(B)	差引(A-B)	主な増減要因
営業収益	1,510,488	1,935,762	△425,274	
水力電力料	898,460	1,464,946	△566,486	小鹿第一・第二、日野川第一リニューアル工事開始による売電量減
風力電力料	77,967	82,352	△4,385	
太陽光電力料	315,284	323,801	△8,517	
運営権対価収益	111,330	64,663	46,667	運営権対価(春米発電所)分割金の収益化
運営権者更新投資収益	107,447	0	107,447	減価償却に応じた収益化(春米発電所)
営業費用	1,495,967	1,443,865	52,102	
水力発電費	1,097,712	1,032,394	65,318	減価償却費等の増(春米発電所)
風力発電費	65,981	85,749	△19,768	修繕費減
太陽光発電費	199,761	195,718	4,043	
一般管理費その他	132,513	130,004	2,509	
<b>営業損益</b>	<b>14,521</b>	<b>491,897</b>	<b>△477,376</b>	
営業外収益	114,681	109,515	5,166	
受取利息	7,893	8,008	△115	運営権対価分割金の受取利息
長期前受金戻入	28,954	30,289	△1,335	
他会計補助金	2,214	10,301	△8,087	
雑収益	75,620	60,917	14,703	退職金(他部局負担分)増 春米発電所維持運営受託収入減
営業外費用	80,615	38,088	42,527	
支払利息	35,192	37,779	△2,587	
雑損失	45,423	309	45,114	退職金(他部局負担分)増
<b>営業外損益</b>	<b>34,066</b>	<b>71,427</b>	<b>△37,361</b>	
<b>経常損益</b>	<b>48,587</b>	<b>563,324</b>	<b>△514,737</b>	
特別利益	0	0	0	
特別損失	0	0	0	
<b>当期純損益</b>	<b>48,587</b>	<b>563,324</b>	<b>△514,737</b>	

### (3) 収支見通し

収支については、今後コンセッションに移行する3発電所（小鹿第一・第二、日野川第一）のリニューアル工事に伴う運転停止により、令和4～6年度は一時的に赤字となるが、それ以降はコンセッションの運営権対価により収益が増加し、資金収支の黒字化、内部留保資金の増加で、より安定した経営が確保できる見込みである。

また、残る17発電所のうち、FIT適用発電所（14施設）については、引き続き安定的な収益が確保できる見通しであり、その他FIT適用外の水力発電所（3施設）については、発電供給力の価値を取引する容量市場や非化石電源（再生可能エネルギー等）が持つ「非化石価値」を証書化し取引を可能にする非化石価値市場等の新制度を通じて収益の確保に努めていく。



(単位:百万円)

区 分	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
収益	1,868	2,045	1,625	1,504	1,353	2,030	2,432
営業収益	1,795	1,936	1,509	1,417	1,266	1,936	2,340
運営権者更新投資収益	0	0	107	106	106	353	491
繰延運営権対価収益	0	65	111	111	172	383	649
長期前受金戻入	32	30	29	37	27	27	27
その他 ※4)	41	79	87	50	60	67	65
費用	1,593	1,482	1,577	1,750	1,992	2,093	2,163
運転経費 ※5)	973	881	854	994	1,269	1,123	1,073
減価償却費	582	563	688	718	688	939	1,063
支払利息	38	38	35	38	35	31	27
収益的収支	275	563	48	△ 246	△ 639	△ 63	269
資本的収入	2,701	3,866	126	400	577	490	769
企業債	2,700	0	15	289	405	107	120
運営権対価	0	3,865	111	111	172	383	649
その他	1	1	0	0	0	0	0
資本的支出	3,272	1,668	412	833	1,214	863	972
建設改良費	2,768	1,269	17	289	405	107	120
企業債償還金	504	399	352	496	809	756	852
一般会計繰出金	0	0	43	48	0	0	0
資本的収支	△ 571	2,198	△ 286	△ 433	△ 637	△ 373	△ 203
資金収支 ※6)	513	3,241	214	△ 356	△ 1,243	△ 174	49
内部留保資金 ※7)	1,710	4,951	5,165	4,809	3,566	3,392	3,441

※1)「収益的収支」は税抜き、「資本的収支」は税込み

※2)R1・R2:決算額、R3以降は推計

※3)R2、9～春米発電所がコンセッションによる運営に移行。小鹿第一・第二、日野川第一もリニューアル後順次移行

※4)収益のその他は、受取利息、退職給与金に係る他部局負担金、災害共済金 等

※5)運転経費:人件費、修繕費、委託料、市町村交付金 等

※6)資金収支=収益的収支+資本的収支+減価償却費+除却損+特別損益-繰延運営権対価収益-運営権者更新投資収益-長期前受金戻入+引当金増減

※7)内部留保資金とは、過年度内部留保資金に現年度資金収支を加えたものである。

## 2 工業用水道事業

### (1) 令和3年度上半期の経営状況

営業収益は、契約水量が前年同期比50m<sup>3</sup>/日の減となったことに伴う基本料金の減があったものの、利用水量の増に伴う超過料金の増により、前年同期比4百万円増の1億82百万円となった。

一方、営業費用は、減価償却費の減等により前年同期比3百万円減の2億7百万円となったことから、営業損益は25百万円の赤字となった。

営業外収益は、長期前受金戻入の増から前年同期比1百万円増の51百万円となり、営業外費用は企業債利息の減により前年同期比4百万円減の32百万円となったことから、営業外損益は、19百万円の黒字となった。

以上により、経常損益及び純損益は、6百万円の赤字となった(赤字幅は13百万円縮小)。

### ○損益計算書(令和3年度上半期)

(単位:千円)

区分	R3年度(A)	R2年度(B)	差引(A-B)	主な増減要因
営業収益	181,797	177,318	4,479	
給水収益(日野川)	128,966	124,496	4,470	超過利用水量増による超過料金の増
給水収益(鳥取)	52,831	52,822	9	契約水量減による基本料金減、超過利用水量増による超過料金の増
その他の営業収益	0	0	0	
営業費用	207,288	210,503	△3,215	
業務費	52,005	50,218	1,787	
総係費	497	425	72	
減価償却費	154,786	159,833	△5,047	機械設備の減価償却減により、鳥取、日野川双方で減
資産減耗費	0	27	△27	
<b>営業損益</b>	<b>△25,491</b>	<b>△33,185</b>	<b>7,694</b>	
営業外収益	51,555	50,836	719	
受取利息	1	1	0	
長期前受金戻入	42,368	41,600	768	補助金で取得した資産の減価償却費の増(日野川)
雑収益	9,186	9,235	△49	
営業外費用	32,172	36,556	△4,384	
支払利息	32,172	36,556	△4,384	企業債利息の減(鳥取、日野川ともに減)
雑支出	0	0	0	
<b>営業外損益</b>	<b>19,383</b>	<b>14,280</b>	<b>5,103</b>	
<b>経常損益</b>	<b>△6,108</b>	<b>△18,905</b>	<b>12,797</b>	
特別利益	0	0	0	
特別損失	0	0	0	
<b>当期純損益</b>	<b>△6,108</b>	<b>△18,905</b>	<b>12,797</b>	

## (2) 令和3年度決算見込み

営業収益は1社300m<sup>3</sup>/日の減量（令和3年10月）があるものの、新規ユーザー1件の給水開始3,400m<sup>3</sup>/日（同年10月）により、前年度比15百万円増の3億71百万円の見込みとした。

一方、営業費用は減価償却費の減があったものの、日野川の漏水予防対策工事等の増により前年度比40百万円増の5億65百万円の見込みとしたことから、営業損益は1億95百万円の赤字の見込みとした。

営業外収益は、長期前受金戻入の減があったものの、街路改良工事に関する補償金収入があり、前年度比13百万円増の1億22百万円と見込み、営業外費用は企業債利息の減により前年度比9百万円減の62百万円の見込みとしたことから、営業外損益は60百万円の黒字の見込みとした。

以上により、経常損益及び純損益は、1億35百万円の赤字の見込みとした（赤字幅は2百万円拡大）。

## ○令和3年度損益計算書(見込み)

(単位:千円)

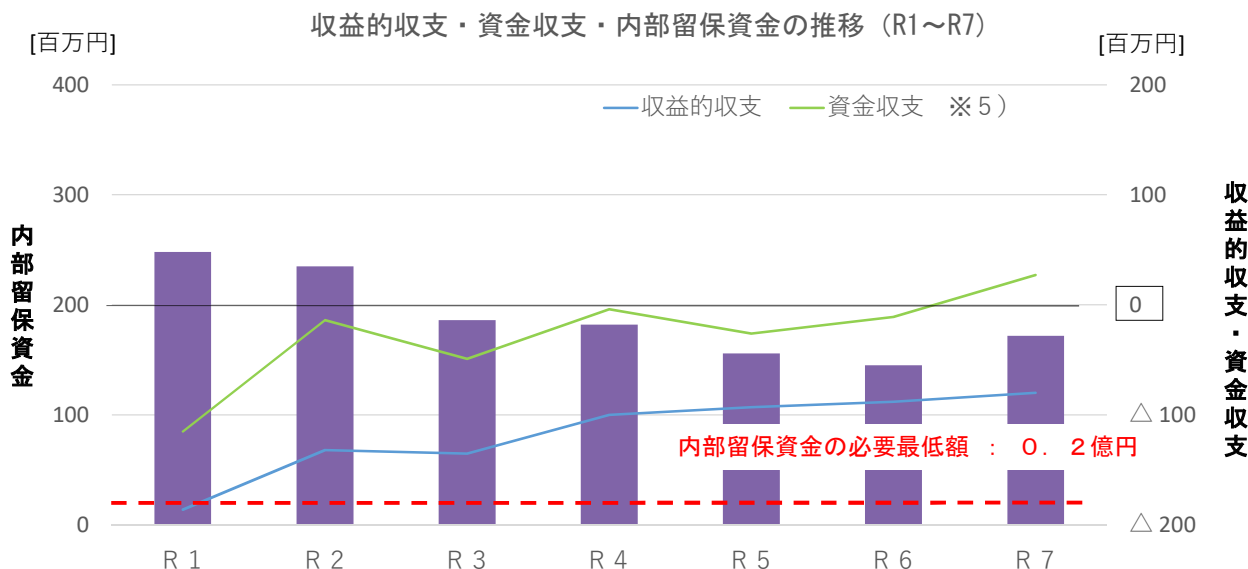
区分	R3年度(A)	R2年度(B)	差引(A-B)	主な増減要因
営業収益	371,208	356,263	14,945	
給水収益(日野川)	268,277	250,776	17,501	新規企業の給水開始に伴う基本料金の増
給水収益(鳥取)	102,931	105,487	△2,556	契約水量減に伴う基本料金の減
その他の営業収益		0	0	
営業費用	565,822	525,840	39,982	
業務費	251,485	202,334	49,151	日野川の漏水予防対策工事等の増
総係費	974	871	103	
減価償却費	309,572	315,825	△6,253	機械設備の減価償却減により、鳥取、日野川双方で減
資産減耗費	3,791	6,810	△3,019	除却資産の減
<b>営業損益</b>	<b>△194,614</b>	<b>△169,577</b>	<b>△25,037</b>	
営業外収益	122,198	108,288	13,910	
受取利息	2	3	△1	
長期前受金戻入	84,736	89,180	△4,444	補助金で取得した資産の減価償却費の減少に伴うもの
雑収益	37,460	19,105	18,355	街路改良工事に関する補償金収入による増
営業外費用	62,244	71,077	△8,833	
支払利息	62,039	70,872	△8,833	企業債利息の減(鳥取、日野川ともに減)
雑支出	205	205	0	
<b>営業外損益</b>	<b>59,954</b>	<b>37,211</b>	<b>22,743</b>	
<b>経常損益</b>	<b>△134,660</b>	<b>△132,366</b>	<b>△2,294</b>	
特別利益	0	0	0	
特別損失	0	0	0	
<b>当期純損益</b>	<b>△134,660</b>	<b>△132,366</b>	<b>△2,294</b>	

(3) 収支見通し

令和3年度中途からの新規大口1社（バイオマス発電会社）の供給開始や、令和4年度中途からの新規2社（うちバイオマス発電会社1）の供給開始及び1社契約水量の増量開始に伴う増収、支払利息等の減により収益的収支の赤字幅が縮小し、また企業債償還金の減もあり資金収支は改善される見通しである。

内部留保資金は、企業債償還金等により令和6年度には1.5億円まで減少するが、必要最低額（各種引当金相当額（退職給与・賞与））の0.2億円は確保できる見込みである。

また、令和7年度には資金収支が黒字に転じる見込みである。引き続き、県商工労働部局、地元市等と連携し、企業進出や増産、設備投資の動向等も見据えながら、工水需要の確保・拡大と施設の長寿命化に取り組むことで内部留保を蓄積し、日野川工水の管路更新等に備える。



(単位:百万円)

区 分	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
収益	493	464	494	508	512	512	511
営業収益 ※3)	363	356	371	407	415	415	415
長期前受金戻入	105	89	85	84	79	79	78
その他	25	19	38	17	18	18	18
費用	679	596	629	608	605	600	591
運転経費 ※4)	236	210	257	236	232	230	229
減価償却費	361	315	310	318	325	328	326
支払利息	82	71	62	54	48	42	36
収益的収支	△ 186	△ 132	△ 135	△ 100	△ 93	△ 88	△ 80
資本的収入	614	492	441	512	330	226	396
企業債	269	178	133	246	118	5	174
出資金	313	305	308	266	212	221	222
国庫補助金	32	9	0	0	0	0	0
資本的支出	829	620	592	672	520	399	553
建設改良費	322	164	133	246	118	6	174
企業債償還金	507	456	459	426	402	393	379
資本的収支	△ 215	△ 128	△ 151	△ 160	△ 190	△ 173	△ 157
資金収支 ※5)	△ 115	△ 14	△ 49	△ 4	△ 26	△ 11	27
内部留保資金 ※6)	248	235	186	182	156	145	172

※1)「収益的収支」は税抜き、「資本的収支」は税込み

※2) R1・R2:決算額、R3以降は推計

※3) 営業収益: R3以降はバイオマス発電等の新規需要を見込む

※4) 運転経費: 人件費、修繕費、委託料、市町村交付金 等

※5) 資金収支 = 収益的収支 + 資本的収支 + 減価償却費 + 除却損 + 特別損益 - 長期前受金戻入 + 引当金増減

※6) 内部留保資金とは、過年度内部留保資金に現年度資金収支を加えたものである。



### 3 埋立事業

#### (1) 令和3年度上半期の経営状況

営業収益は、竹内工業団地において新規の土地の分譲2件(0.3ha・0.4ha)があったが、長期貸付土地分譲に伴う貸付料の減等により前年同期比10百万円減の1億66百万円となった。

一方、営業費用は、土地分譲に伴う土地売却原価の増により前年同期比4百万円増の91百万円となったことから、営業損益は、75百万円の黒字となった。

営業外収益は、短期土地貸付料の減により、営業外損益は、前年同期比4百万円減の1百万円の黒字となった。

以上により、経常損益及び純損益は、76百万円の黒字となった(黒字幅は18百万円縮小)。

#### ○損益計算書(令和3年度上半期)

(単位:千円)

区分	R3年度(A)	R2年度(B)	差引(A-B)	主な増減要因
営業収益	166,267	176,053	△9,786	
土地売却収益	89,030	92,785	△3,755	竹内2件(前年同期:竹内1件、旗ヶ崎1件)
その他営業収益	77,237	83,268	△6,031	長期貸付地売却に伴う貸付料の減
営業費用	91,611	86,999	4,612	
土地売却原価	74,397	69,307	5,090	竹内2件(前年同期:竹内1件、旗ヶ崎1件)
一般管理費	10,753	10,960	△207	市町村交付金が減
企業誘致費	6,461	6,732	△271	
<b>営業損益</b>	<b>74,656</b>	<b>89,054</b>	<b>△14,398</b>	
営業外収益	1,215	5,363	△4,148	
受取利息	661	3	658	
雑収益	554	5,360	△4,806	短期土地貸付料の減
営業外費用	0	0	0	
<b>営業損益</b>	<b>1,215</b>	<b>5,363</b>	<b>△4,148</b>	
<b>経常損益</b>	<b>75,871</b>	<b>94,417</b>	<b>△18,546</b>	
特別利益	0	0	0	
特別損失	0	0	0	
<b>当期純損益</b>	<b>75,871</b>	<b>94,417</b>	<b>△18,546</b>	

## (2) 令和3年度決算見込み

営業収益は、竹内工業団地において新規の土地分譲2件（0.3ha・0.4ha）であるが、土地売却収益は昨年度と比べて減少し、また長期貸付料も減少するため、前年度比87百万円減の1億71百万円の見込みとした。

一方、営業費用は、土地売却原価が減少することなどにより前年度比60百万円減の1億10百万円の見込みとしたことから、営業損益は、61百万円の黒字の見込みとした。

営業外収益は、退職金（他部局負担分）の増により前年度比14百万円増の21百万円と見込み、営業外費用は退職金（他部局負担分）の増により前年度比20百万円増の20百万円の見込みとしたことから営業外損益は、2百万円の黒字の見込みとした。

以上により、経常損益及び純損益は、63百万円の黒字の見込みとした（黒字幅は32百万円縮小）。

### ○損益計算書(令和3年度見込み)

(単位:千円)

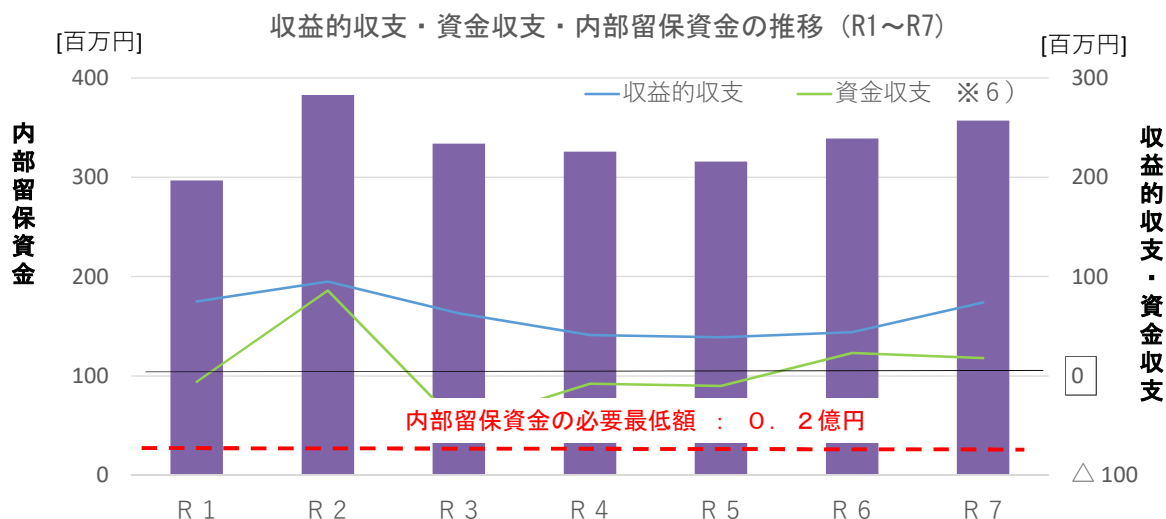
区分	R3年度(A)	R2年度(B)	差引(A-B)	主な増減要因
営業収益	171,536	258,776	△87,240	
土地売却収益	92,710	173,749	△81,039	竹内2件(前年度は売却4件)
その他営業収益	78,826	85,027	△6,201	長期貸付地売却に伴う貸付料の減
営業費用	110,246	170,280	△60,034	
土地売却原価	77,789	140,935	△63,146	土地売却に伴い減
一般管理費	13,400	13,606	△206	
企業誘致費	19,057	15,739	3,318	
<b>営業損益</b>	<b>61,290</b>	<b>88,496</b>	<b>△27,206</b>	
営業外収益	21,894	6,988	14,906	
受取利息	794	157	637	
雑収益	21,100	6,831	14,269	短期土地貸付料の減 退職金(他部局負担分)の増
営業外費用	20,000	4	19,996	
長期借入金利息	0	0	0	
雑支出	20,000	4	19,996	退職金(他部局負担分)の増
<b>営業外損益</b>	<b>1,894</b>	<b>6,984</b>	<b>△5,090</b>	
<b>経常損益</b>	<b>63,184</b>	<b>95,480</b>	<b>△32,296</b>	
特別利益	0	0	0	
特別損失	0	0	0	
<b>当期純損益</b>	<b>63,184</b>	<b>95,480</b>	<b>△32,296</b>	

### (3) 収支見通し

土地売却（割賦分を含む）や長期貸付による安定的な収入が見込まれ、収益的収支は、黒字が確保できる見通しであり、内部留保資金は概ね3億円程度で推移し、安定経営が見込まれる。なお、一般会計からの借入金残高約25億円は未分譲地（長期貸付含む）の売却により返済できる見通しである。

引き続き、県商工労働部局、地元市等と連携し、土地売却に向けて営業展開していく。

なお、竹内工業団地の貨客船ターミナル背後地の分譲については、分譲を求める企業の声や産業振興を期待する地元の意向を踏まえ、「賑わいづくり」にも配慮しながら、新たに区割して分譲を進める。



(単位: 百万円)

区 分	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
収益	111	266	194	112	109	120	404
営業収益 ※3)	104	259	172	81	81	95	381
その他 ※4)	7	7	22	31	28	25	23
費用	36	171	131	71	70	76	330
土地売却原価	6	141	78	1	1	9	264
運営経費 ※5)	30	30	53	70	69	67	66
収益的収支	75	95	63	41	39	44	74
資本的収入	0	0	0	0	0	0	0
資本的支出	87	150	190	50	50	30	320
借入金償還金	87	150	190	50	50	30	320
国庫補助金返還金	0	0	0	0	0	0	0
資本的収支	△ 87	△ 150	△ 190	△ 50	△ 50	△ 30	△ 320
資金収支 ※6)	△ 6	86	△ 49	△ 8	△ 10	23	18
内部留保資金 ※7)	297	383	334	326	316	339	357

※1) 埋立事業は消費税及び地方消費税については免税

※2) R1・R2: 決算額、R3: 決算見込み、R4以降は推計

※3) 事業収益: R3.11.15現在の分譲対象4区画(竹内1,2,3号地、旗ヶ崎2319-2)については未分譲のままとする。なお、長期貸付期間満了による企業等への土地分譲を見込む。

※4) 収益のその他は、土地貸付料(短期)、受取利息、退職給与金に係る他部局負担金 等

※5) 運営経費: 人件費、団地整備費、委託料、市町村交付金 等

※6) 資金収支=収益的収支+資本的収支+土地売却原価+特別損益+引当金増減

※7) 内部留保資金とは、過年度内部留保資金に現年度資金収支を加えたものである。